



特集：北海道の温泉

北海道の温泉の特集に当たって

大塚 吉 則¹⁾

Hot Springs in Hokkaido —Introduction—

Yoshinori OHTSUKA¹⁾

環境省ホームページ内の「温泉の保護と利用」、「温泉に関するデータ」によると、北海道は温泉地の数、年間延宿泊者数が日本で一番多く、源泉数で全国3位、総湧出量では全国2位の位置を占めており、北海道は温泉天国と言える。その北海道で7年ぶりに温泉科学会大会が開催されることになり、ここに特集を組むこととなった。

松波論文では、自然湧出による温泉水を利用している温泉地を「従来温泉地」、掘削により新しく開発された温泉地を「新規温泉地」と区別し、地質・地球化学の視点から二者の相違について論述している。鈴木論文では、温泉地を散策するためのガイドマップや看板に代わる新たなツールとして、携帯電話のインターネット機能と二次元コード（QRコード）を利用した情報提供のシステムを構築し、温泉地情報をリアルタイムで、携帯電話にて確認することができるようにした技術について報告している。大塚論文では、中高齢者の健康増進活動として、北海道内での温泉を活用した生活習慣病予防教室の一例を紹介し、身体組成や血液学的指標の改善のみならず、効果的な行動変容をもたらしたことを報告している。最後に内野論文では、道内の温泉地滞在者に療養目的・健康づくりに関するアンケート調査を実施して、温泉利用の目的・方法を明らかにした。さらにアトピー性皮膚炎のモデル動物を用いて、道内温泉水の効能を検討して報告している。

以上4編の論文は、北海道における温泉の起源に関する研究、観光地としての温泉地の紹介手段、温泉地の活用方法としての健康づくり、療養形態から実際の病気治療へのアプローチともなる動物実験まで多岐にわたるものであり、温泉科学の学際性をよく表したものと言える。

¹⁾北海道大学大学院教育学研究院 〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目、¹⁾Faculty of Education, Hokkaido University, N11 W7, Kita-ku, Sapporo 060-0811, Japan.